

## 第5回映画産業の海外展開に関する検討会議 議事要旨

1. 開催日時 : 平成29年12月21日(木)午後3時半～4時半
2. 開催場所 : 内閣総理大臣官邸3階南会議室
3. 概要 :

(1) 冒頭、西村康稔内閣官房副長官より、以下の挨拶があった。

委員及び関係者の皆様におかれましては、大変お忙しいところ、本検討会議にご参加いただきまして、誠に有り難うございます。

内閣官房副長官を拝命しております西村康稔でございます。8月に拝命いたしましたして、本会議への出席は初めてになります。前任の萩生田議員にも出席をいただいております。

私自身25年くらい前になりますけれども、映画産業を経済産業省時代に担当させていただいております。国際映画祭や映画産業の振興に携わらせていただきましたけれども、実は10年ほど前に日韓共同製作映画『あなたを忘れない』に友情出演したこともありまして、映画業界の発展には、人一倍強い関心、愛着を持っているわけでございます。

今回この検討会議で、映画産業においてアベノミクスを実現していくという経済的な観点、諸外国における日本の映画ファン、映画を通じての日本ファンを増やすという外交的な観点からも含めて、前回8月の会議にて皆様に熱くご議論いただいた戦略的な方針、特に地域別方針に沿って、日本映画の海外展開を進めているところであります。

特に、萩生田前官房副長官のもと、政府としても力強く働き掛けを行ってきました中国に関して、日中両政府の間で、昨年12月から映画共同製作協定の交渉を重ねてきたところであります。その結果、本年の9月下旬に、協定案の大筋合意に至りまして、10月の東京国際映画祭の機会に、記者発表したところでございます。

また、11月から12月にかけて、北京、上海、福州、深セン、成都、昆明の6都市で、集中的に日本映画の上映会を実施いたしまして、その中で、特に福州シルクロード国際映画祭のシンポジウムでは、宮田文化庁長官からも日中映画共同製作協定の大筋合意及び期待について、講演を行っていたところであります。

来年は、フランスで、日仏友好160周年を記念した「ジャポニスム2018」が開催されますし、日本映画の100年の歴史を振り返る企画を実施

する予定であります。また、ロシアでは、「ロシアにおける日本年」が来年開催され、日本映画を集中的に上映する予定にしております。

また、依然として、日本映画の認知度が低い国を中心に、その認知度の向上を図るべく、本年7月より、国際交流基金が、ASEAN10か国、インド、オーストラリアにおきまして、包括的に日本映画祭を実施しているところであり、来年度も継続的に実施する予定になっております。

オールジャパンで日本の映画業界を盛り上げていく観点から、関係省庁また関係者の皆様からご報告をいただき、今日のご意見を参考にして更に前に進めて参りたいと思っておりますので、どうぞ忌憚のない御意見をよろしくお願い申し上げます。

(2) その後、第30回東京国際映画祭の実施報告があったほか、関係省庁等より議事次第に沿って報告があり、概要以下のような意見が交わされた。

ア フランス映画業界側から日本側との映画協力に関心が寄せられていることも受け、明年の「ジャポニスム2018」というタイミングを見据え、官民一体となって日・フランスの映画交流を更に促進するべきである。

イ 中国においては、特に若者による日本映画及び俳優への関心が高く、引き続き、官民一体となって、中国マーケットを対象として展開していくことも重要である。

ウ 映画業界の更なる発展のためには、ロケにおける許認可手続に関する情報共有や撮影許可の内容の遵守等による地域の理解の醸成が必要である。

(3) 最後に、西村副長官より、委員の皆様からの活発なご意見に感謝したい旨挨拶があり、閉会した。

(了)